

昔々、ひとりの虚弱児がいた。彼は孤児で水疱瘡にかかっていた。彼は3人の兄と暮らしていたが、兄たちは彼をよくいじめた。時には放り投げられ、また悪し様に罵られた。

或る日、彼らは旅に出て、アラビアのスルタンが治める町に着いた。兄たちは女たちをナンパするために出かけ、末っ子にはどこかに行くよう命じた。彼らはその子のことを恥じていたからである。末っ子は出かけ、月明かりの下で井戸の側で寝た。夜遅くになって、彼は物音を聞いた。彼はジンたちが集まっているのを見た。ジンたちは、彼らが隠した宝物の隠し場所について話していた。末っ子は用心してその場に留まり、やがてジンたちは去って行った。

翌日、末っ子は兄たちを呼んで言った。

「僕たちがお金持ちになってこの町を治める人になる方法を知っているよ。でも、ひとつだけ条件があって、それは僕がスルタンになって兄さんたちが大臣ということ。それでいいかい？」。

兄たちは同意した。このやり取りを経て、末っ子はジンたちの秘密を打ち明けた。しかし、道の途中で兄たちは末っ子が出した条件を拒んだ。彼らは言った。

「お前の分の金を持ってどこかへ行け」。

夜になって、彼らは末っ子がジンたちの密談を聞いた場所まで行った。、彼らは長く留まり過ぎて、ジンたちがとうとうやって来た。ジンたちは、彼らの宝物が消えていることに気づいた。彼らはその辺りを探したが、それは誰かが様子を窺っていると疑ったからだ。ジンたちのひとりが、兄たちのいることを嗅ぎつけた。兄たちは弁解するために、末っ子に罪を負わせた。ジンたちは兄たちを殺し、末っ子は最後には金持ちになった。